

景況調査

報告書 NO. 56

平成24年 7月～9月 実績
平成24年 10月～11月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成24年度第2四半期(H24. 7～9月)景況調査

1. 調査時点 平成24年9月10日～30日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 119[112企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	50 (3)	13 (2)	17 (1)	24	8 (1)	7	119 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△32.0、前期実績(4～6月・△12.6)と比較すると19.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比については△29.4、前期実績(4～6月・△19.7)に比較すると9.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△21.8、前期実績(4～6月・△18.1)と比較すると3.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△32.8、前期実績(4～6月・△26.7)と比較すると6.1ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H24.10～12月)見通し**については△25.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △29.4)と比較すると4.1ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち食料品は、国内の食品業界は、海外製品との価格競争にさらされ、原材料コストの負担感に加えて、海外生産シフトを懸念。織物は、ジャガード・インテリア関連は変わらず厳しい状況。寝装品はかろうじて現状維持であるが、総じて低調に推移。漁網・ロープは、復興需要でロープは盛況。漁網は漁価が上がらず厳しい。土木ネットは好調。鉄工のうち、工作機械関係は外需で堅調も、欧州の低迷と国内製造業の海外シフト、対中関係に懸念。自動車部品関連は、エコカー減税期限切れで減産傾向。メーカーの海外シフトによる国内受注競争激化を懸念。化学・プラスチックのうち、化学は中国向け輸出が減少で厳しい。プラスチックは前年比で回復基調も、急激な原材料高に懸念。

「**建設業**」は、年度当初に比べ公共工事に動きが出つつあるも全般的には低調に推移。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、<産業資材関連>全ての分野で膠着状態。特に8月は厳しかった。<インテリア関連> インテリアはシーズンオフ。夏物も在庫過剰気味であった。<衣料関連> 専門店の販売不振で夏物は伸びず。晩夏～秋冬も先物成約少なく動きが読めない。

「**小売業**」は、夏季の贈答品商戦も昨年並み。お盆の売上は昨年並みか、やや下回った。飲食は、さほど変化なし。ランチは入るが、夜は予約客が大半。

「**サービス業**」のうち旅館関係は、夏季のピークだが、盛況な関東(ディズニー・スカイツリー)エリア・円高による海外旅行の増加もあり対前年比微減。対中関係の悪化でキャンセルも多少発生。

「**運輸通信業**」貨物輸送のうち、原油価格も沈静化しつつあり90ドル台で推移。米国景気、欧州債務問題、中東情勢、投資家の動向を注視している。バス業界関係 概ね前年並みを維持。震災影響下にあった昨年に比べて、スカイツリー効果もあり関東方面に多く人が動いた。

設備投資状況は、33事業所(42件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は32事業所(45件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、競争激化、利幅の縮小、原材料(燃料)高、販売納入先からの値下げ要請が項目別で上位を占めていた。

当地区において 復興需要、節電・省エネ、エコカー補助金等に下支えされて来た動きが一段落。全国的に景気回復の動きが一服し、ここ蒲郡でも対前年・前期比で悪化傾向が強まった。中国との領土問題の長期化を懸念する声が各業界で垣間見られた。当所としては、アクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

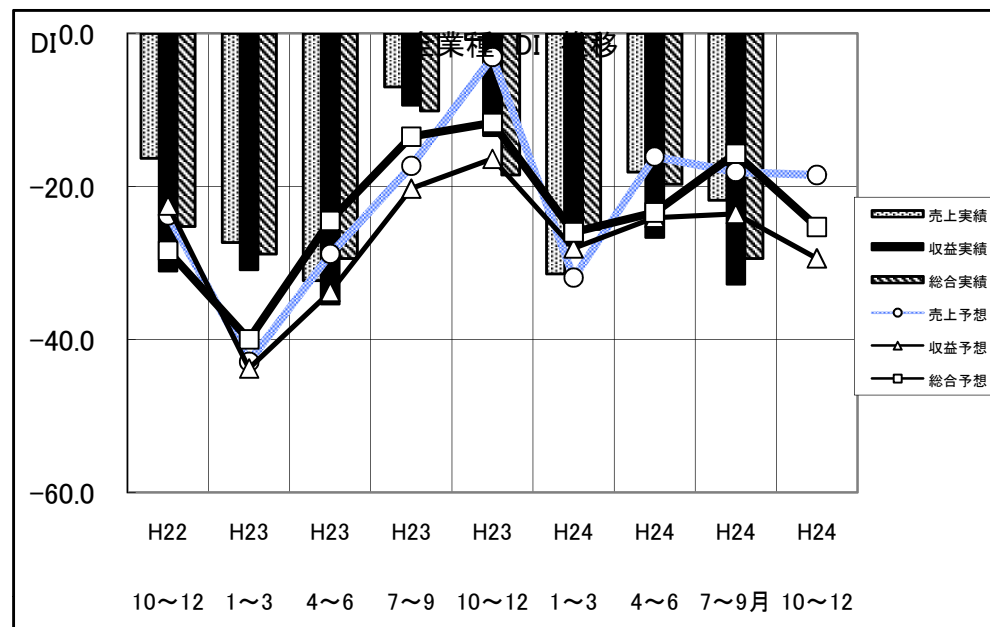
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-29.4	-21.8	-18.5	H23. 7～9月実績	-6.2	-7.0	-18.7	-9.4	-11.0	-10.1	-11.7
②製品・商品在庫	-15.1	-13.5	-7.6	H23. 10～12月実績	-14.1	-0.8	-23.7	-13.4	-14.8	-18.5	-26.0
③資金繰り	-16.8	-17.6	-8.4	H24. 1～3月実績	-7.3	-31.4	-21.9	-27.7	-19.0	-25.6	-23.4
④採算(収益)	-33.6	-32.8	-29.4	H24. 4～6月実績	-7.9	-18.1	-18.9	-26.7	-12.6	-19.7	-15.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	3.3	-3.3	0.0	H24. 7～9月実績	-29.4	-21.8	-33.6	-32.8	-32.0	-29.4	-25.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-32.0	-29.4	-25.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-16.3	-27.3	-32.3	-7.0	-0.8	-31.4	-18.1	-21.8	-18.5
収益	-31.1	-30.9	-35.4	-9.4	-13.4	-27.7	-26.7	-32.8	-29.4
総合	-25.2	-28.8	-29.4	-10.1	-18.5	-25.6	-19.7	-29.4	-25.3

◎DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

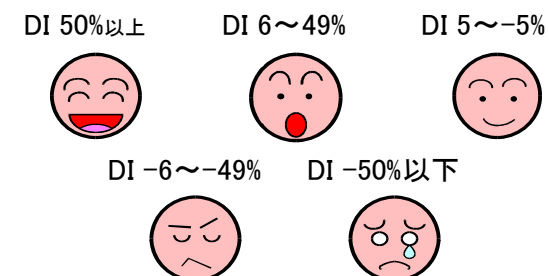
DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
業況(総合判断) :DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



製造業

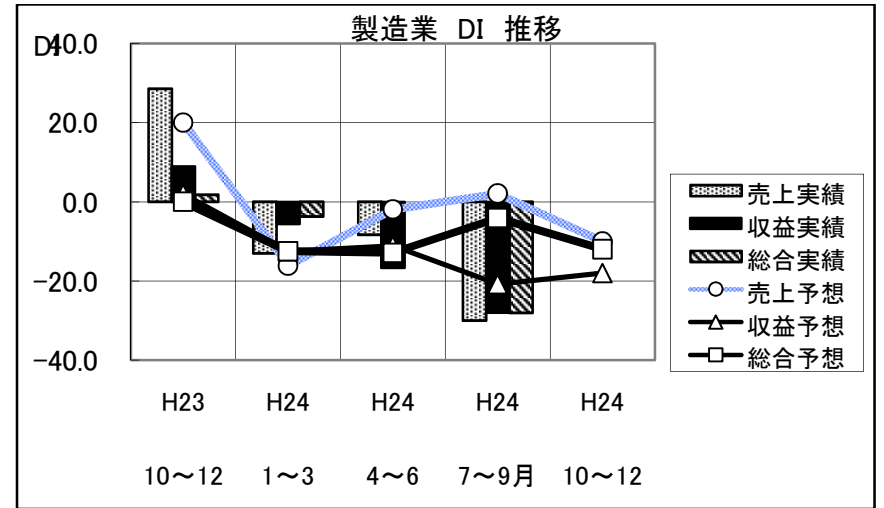
売上DI値は△30.0、前期実績4～6月期(△8.3)に比して21.7ポイントの下降、収益DI値は△28.0、前期実績4～6月期(△16.7)に比して11.3ポイントの下降、総合判断DI値は28.0、前期実績4～6月期(0.0)に比して28.0ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向である。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも改善傾向も水面下の厳しい状況である。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-6.0	-30.0	-10.0
②製品・商品在庫	-14.0	-12.0	-2.0
③資金繰り	-6.0	-14.0	0.0
④採算(収益)	-24.0	-28.0	-18.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.0	0.0	2.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.0	-28.0	-12.0



<業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	28.6	-13.0	-8.3	-30.0	-10.0
収益	8.9	-5.6	-16.7	-28.0	-18.0
総合	1.8	-3.7	0.0	-28.0	-12.0

[食料品]

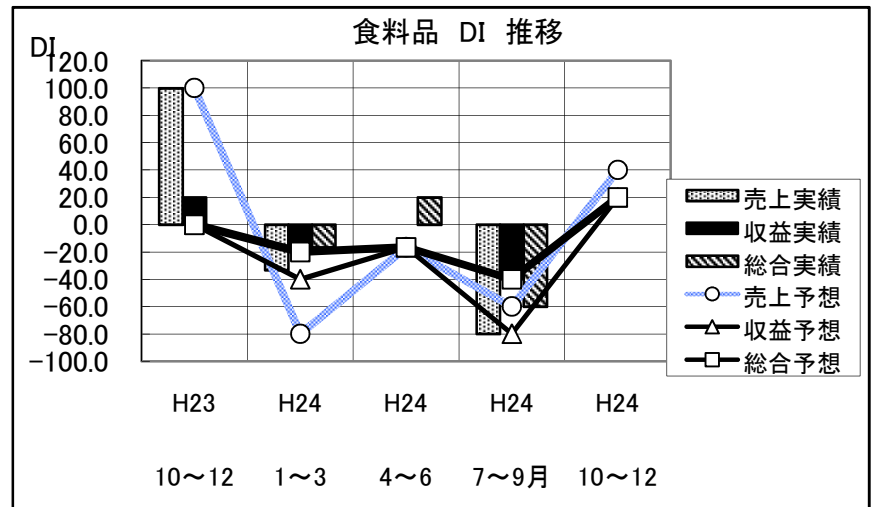
売上げは、前期比DI値△80.0%と減少、前年同期比でもDI値△20.0%と悪化の傾向。収益でも、前期比DI値△40.0%、前年同期比DI値△60.0%と悪化。原材料価格の上昇による影響を懸念する声が多い。総合判断では前期比DI値は△60.0%、前年同期比ではDI値△20.0%と業況は悪化しており厳しい状況にある。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期に入り、売上はDI値40.0%と増加の見通し。収益DI値は20.0%、総合判断DI値は20.0%と改善の見通し。国内の食品業界は、海外製品との価格競争にさらされており、原材料コストの負担感に加えて、今後海外生産への依存が強まることが懸念される。こうした環境下で海外への販路拡大を目指し、地域性を売りにした商品開発に力を入れている企業も見られ、今後地産食材を活用していく動きが期待される。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-80.0	40.0
②製品・商品在庫	-40.0	-20.0	20.0
③資金繰り	0.0	-20.0	20.0
④採算(収益)	-60.0	-40.0	20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	40.0	-20.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-60.0	20.0



<業況判断DIの推移>

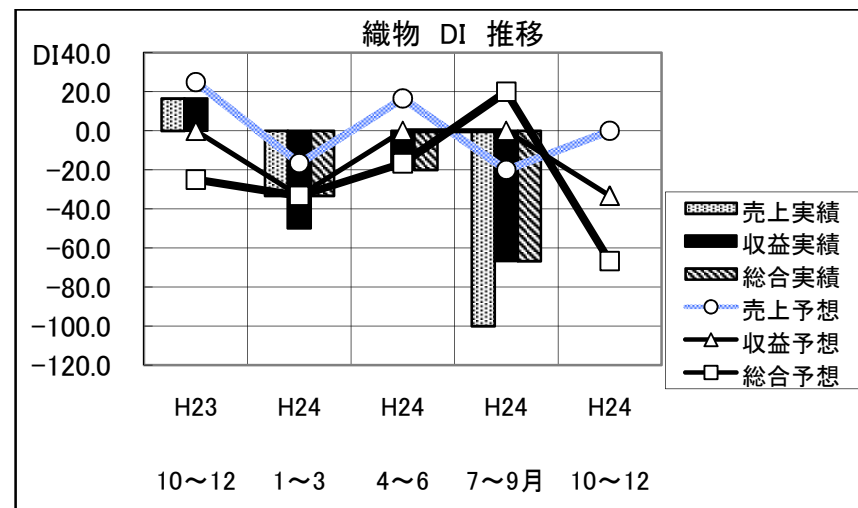
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	100.0	-33.3	0.0	-80.0	40.0
収益	20.0	-16.6	0.0	-40.0	20.0
総合	0.0	-16.6	20.0	-60.0	20.0

[織物]

ジャガード・インテリア関連は変わらず大変厳しい状況。寝装品はかろうじて現状維持であるが、総じて低調に推移。

向こう3カ月の見通し ジャガード・インテリア関連は引き続き低調。稼働率も大幅な向上は見込めず、苦戦が続く見込み。

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-100.0	0.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-66.7	-100.0	-66.7
④採算(収益)	-66.7	-66.7	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-100.0	-33.3	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	-66.7	-66.7



<業況判断DIの推移>

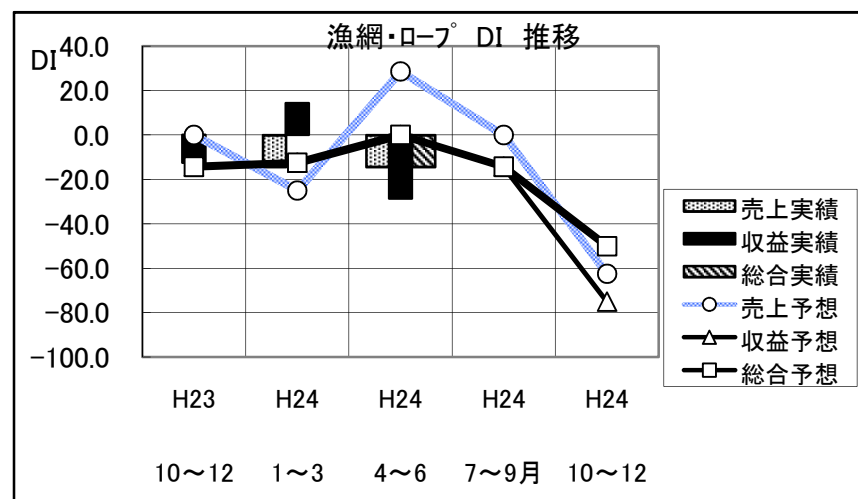
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	16.6	-33.3	0.0	-100.0	0.0
収益	16.6	-50.0	-20.0	-66.7	-33.3
総合	0.0	-33.3	-20.0	-66.7	-66.7

[漁網・ロープ]

ロープは変わらず活況であり、生産はおおむね昨年並みで推移。漁網は魚価安の影響がある。土木は順調に推移も、建築は遅れ気味。自動車関連は落ち込みが見られ、スポーツ関係は不変である。

向こう3カ月の見込み ロープは変わらず繁忙で昨年並みで推移する見込み。土木・建築関連は動きがあり。自動車は厳しく、スポーツは不変の見通しである。(繊維ロープ部会)

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-62.5
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-12.5
③資金繰り	-12.5	-12.5	-25.0
④採算(収益)	-50.0	0.0	-75.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	0.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	0.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	0.0	-14.3	-14.3	0.0	-62.5
収益	-12.5	14.3	-28.6	0.0	-75.0
総合	0.0	0.0	-14.3	0.0	-50.0

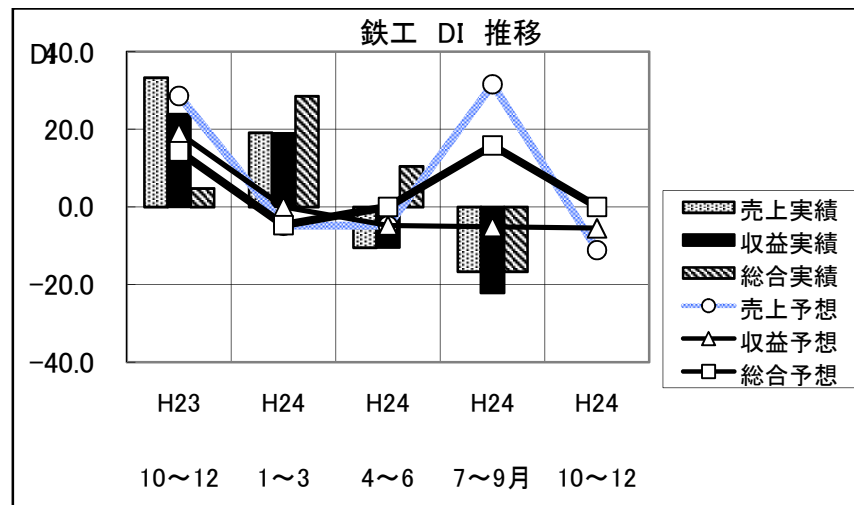
[鉄工]

<工作機械関係> 国内生産は、依然として高い水準で推移。外需頼みの生産増が続く。受注は、季節的要因か円高の影響か、全国の機械受注統計では8月に1,000億円を割り込んだが、全体では健闘。 向こう3カ月の見通し 稼働状況は現状並みの見込みも、受注に不安要因が増える。欧州受注の落ち込みに加え、中国の情勢不安が追い打ちをかけた。日系企業は不穏な動き。アメリカの景気浮揚に期待。国内は円高の進行と政治不安、電力コスト増加のため国内産業の競争力低下を懸念。厳しい局面で推移しそうである。

<自動車部品関係> 生産は、エコカー減税期限切れで減産傾向。メーカーは販売キャンペーンを打ち出すも、本年中は減少傾向。自動車各社の海外現地生産の動きで、国内生産の回復はあまり期待出来ない。 向こう3カ月の見通し エコカー減税後の政策を注視。生産計画は減産傾向が明確化。今回の中国リスク対応で自動車各社は減産の見通し。長期化を懸念。円高により、自動車各社の増産・新機種生産計画は海外生産に移行しており、国内受注競争は価格・競争が激化する様相。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	22.2	-16.7	-11.1
②製品・商品在庫	-5.5	-5.5	-5.5
③資金繰り	5.5	0.0	27.8
④採算(収益)	5.5	-22.2	-5.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	22.2	16.6	5.5
⑥貴社の業況(総合判断)	16.7	-16.7	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	33.3	19.1	-10.5	-16.7	-11.1
収益	23.9	19.0	-10.5	-22.2	-5.5
総合	4.8	28.5	10.5	-16.7	0.0

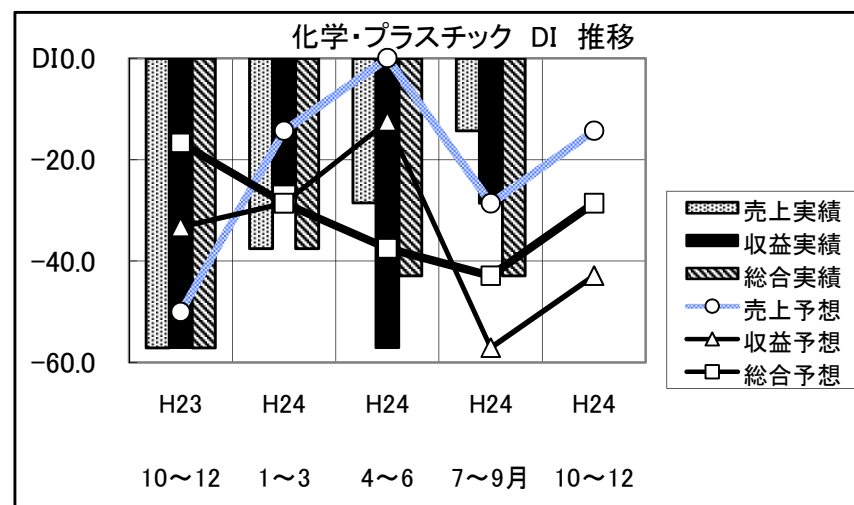
[化学・プラスチック]

<化学工業> 中国向け輸出が減少。 向こう3カ月の見通し 中国の景況悪化により売上減少を懸念。

<プラスチック> 生産額・売上額が前年同期と比べて増加した時期だった。採算も上昇し、総合的に好調な時期であった。 向こう3カ月の見通し 原油高が急速に進んでおり、秋に原料値上げが予想され採算が下降する見込みである。売上や総合的な業況については今期並みと思われる。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-28.5	-14.3	-14.3
②製品・商品在庫	-14.3	0.0	0.0
③資金繰り	-28.6	-14.3	-14.3
④採算(収益)	0.0	-28.6	-42.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	57.1	0.0	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-42.9	-28.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-57.1	-37.5	-28.5	-14.3	-14.3
収益	-57.1	-25.0	-57.1	-28.6	-42.9
総合	-57.1	-37.5	-42.9	-42.9	-28.6

建設業

売上DI値は△15.4、前期実績4～6月期(△38.4)に比して23.0ポイントの上昇、収益DI値は△46.1、前期実績4～6月期(△53.8)に比して7.7ポイントの上昇、総合判断DI値は△38.5、前期実績4～6月期(△53.8)に比して15.3ポイントの上昇。売上・収益・総合とも改善傾向も、依然として全て水面下の厳しい状況が続く。年度当初に比べ公共工事に動きが出つつあるも、民間の動きが鈍く全般的には低調に推移。

向こう3カ月の見通し 売上は下降、収益・総合は上昇も全ての面で見通しは厳しい。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-46.1	-15.4	-30.8
②製品・商品在庫	-23.1	-15.4	-15.4
③資金繰り	-23.1	-15.4	-15.4
④採算(収益)	-53.8	-46.1	-38.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-7.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-38.4	-38.5	-23.1

卸売業

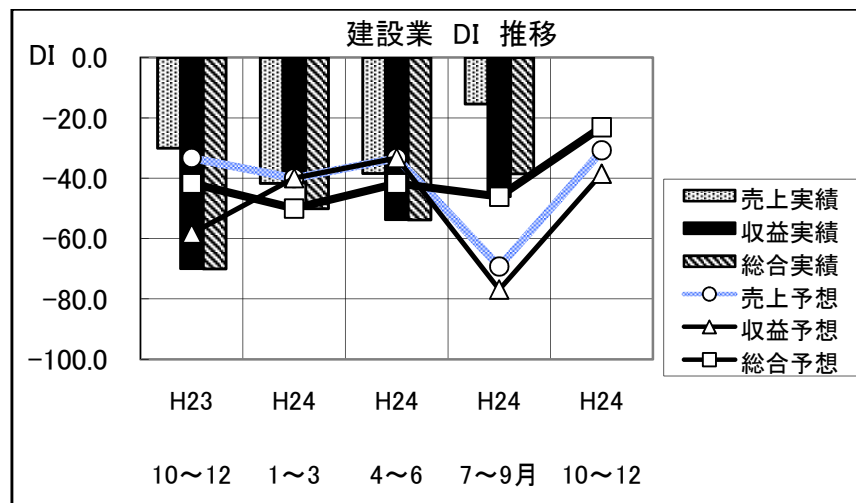
売上DI値は△11.8、前期実績4～6月期(0.0)に比して△11.8ポイントの下降。収益DI値は△29.4、前期実績4～6月期(△11.1)に比して18.3ポイントの下降、総合判断DI値は△23.5、前期実績4～6月期(△22.2)に比して1.3ポイントの下降と、売上・収益・総合共に悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも改善傾向にあるが、収益・総合は水面下であり楽観視できない。

卸売業

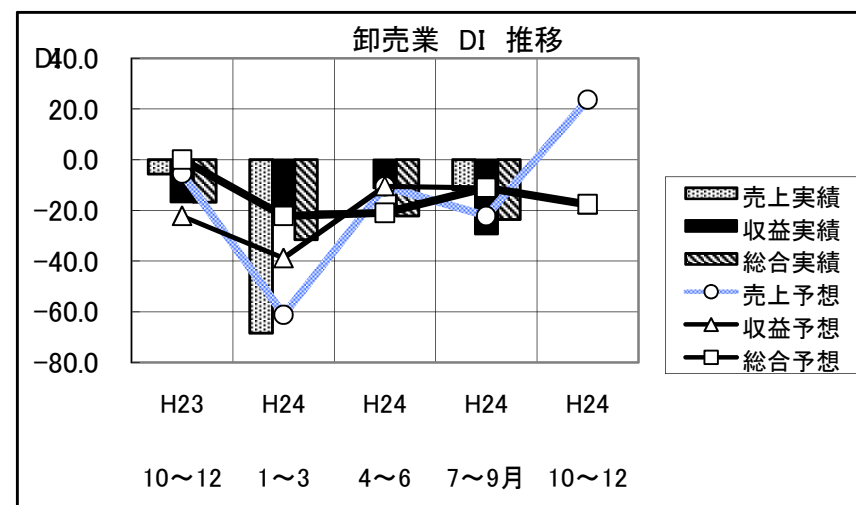
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-41.2	-11.8	23.6
②製品・商品在庫	-29.4	-23.5	-23.5
③資金繰り	-5.9	-11.8	0.0
④採算(収益)	-23.5	-29.4	-17.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	5.8	5.9	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-47.0	-23.5	-17.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-30.0	-41.7	-38.4	-15.4	-30.8
収益	-70.0	-41.7	-53.8	-46.1	-38.5
総合	-70.0	-50.0	-53.8	-38.5	-23.1



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-5.6	-68.4	0.0	-11.8	23.6
収益	-16.7	-21.1	-11.1	-29.4	-17.6
総合	-16.7	-31.5	-22.2	-23.5	-17.6

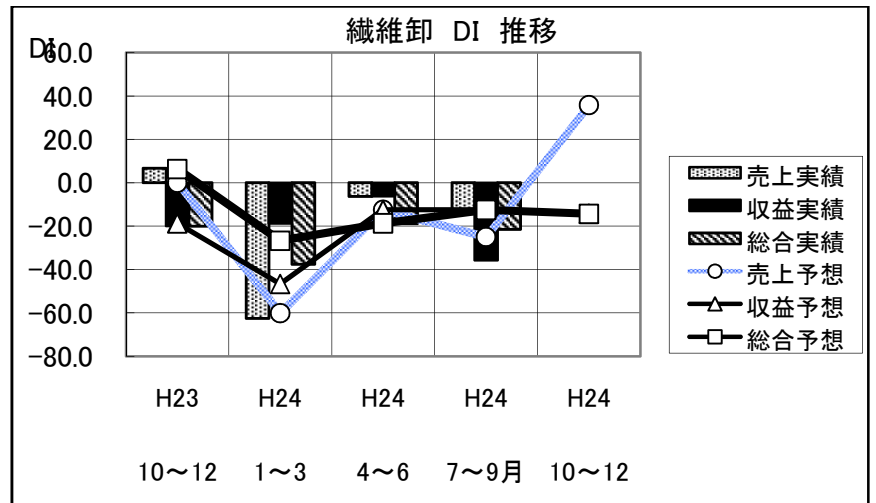
【繊維卸】

<産業資材関連>全ての分野で膠着状態。自動車も国内生産はダウンで一部を除いて低調。テープ関係も動き悪く、8月は厳しかった。なかなか光が見えない。 向こう3カ月の見通し 対中関係が落ち着くまで先が見えない。
 <インテリア関連>シーズンオフで受注量・出荷量とも低調。暑さ対策に期待した夏物も期待外れで在庫を抱えた所も多い。 向こう3カ月の見通し シーズンインで受注に期待。大手企業の直貿易増加が感じられ、商品開発力を蓄えながら動向を注視したい。
 <衣料関連>専門店売上不振のため衣料向け生地は昨年対比でダウン。秋冬もウール・カットソー素材が主力で、綿素材は伸びず。晩夏～初秋者の動きも鈍く、秋物製品は昨年対比で減産している所が多い。 向こう3カ月の見通し 昨年の秋冬物在庫過剰気味で大きな期待はできず。先物成約は全体に少なく当月買いの状況続く。11月からの春夏商材は、綿のナチュラルな風合い、レーヨン、リネン素材が注目されているが、昨年対比でダウンは避けられず(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-42.8	-14.3	35.7
②製品・商品在庫	-35.8	-28.6	-28.6
③資金繰り	-7.1	-14.3	0.0
④採算(収益)	-28.6	-35.8	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	7.2	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.9	-21.5	-14.3



<業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	6.7	-62.5	-6.2	-14.3	35.7
収益	-20.0	-18.8	-6.2	-35.8	-14.3
総合	-20.0	-37.5	-18.8	-21.5	-14.3

小売業

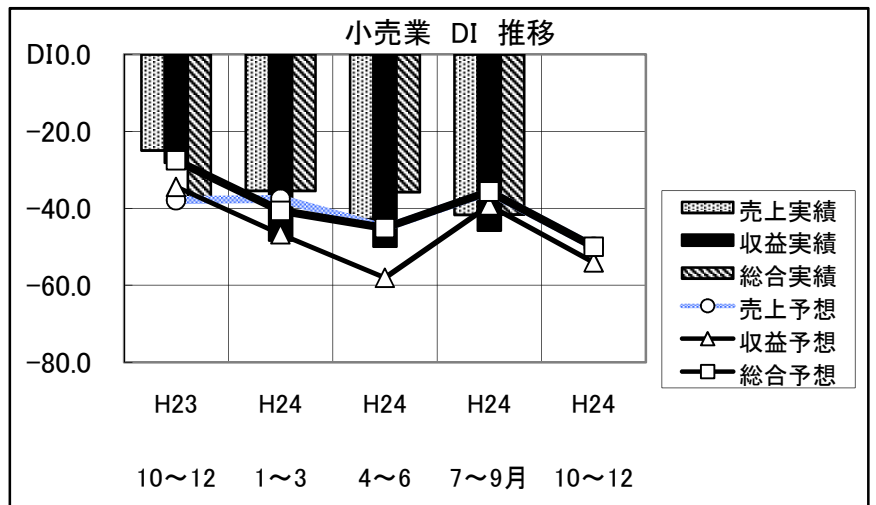
売上DI値は△41.7、前期実績4～6月期(△42.9)に比して1.2ポイントの上昇。収益DI値は△45.8、前期実績4～6月期(△50.0)に比して4.2ポイントの上昇、総合判断DI値は△41.6、前期実績4～6月期(△35.8)に比して5.8ポイントの下降と、売上・収益は僅かに改善、総合は悪化傾向が見られた。 向こう3カ月の見通し 年末年始の活況時を迎えるが、売上・収益は横バイ、総合判断は悪化傾向にあり厳しい見通し。

夏季のお中元シーズンで、贈答品の売上は平均並み。お盆の売上は昨年並みか下回った。 向こう3カ月の見通し 10月は各地で秋祭りのシーズンがあり、少し動きが出てくる。また、クリスマス～年末年始の時期にも期待をしている。努力して昨年並みの売上を確保したい。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-62.5	-41.7	-50.0
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-12.5
③資金繰り	-37.5	-33.3	-29.1
④採算(収益)	-54.2	-45.8	-54.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-12.5	4.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-54.2	-41.6	-50.0



<業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	-25.0	-35.5	-42.9	-41.7	-50.0
収益	-28.2	-48.4	-50.0	-45.8	-54.1
総合	-37.5	-35.5	-35.8	-41.6	-50.0

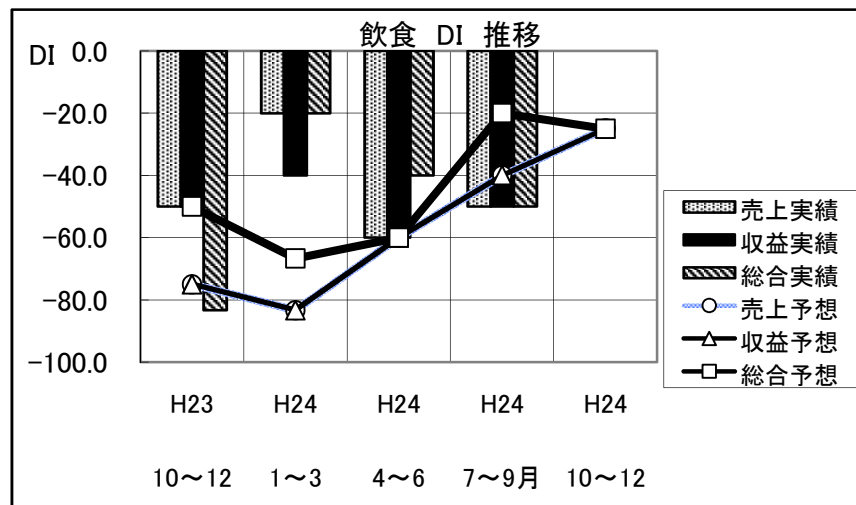
[飲食]

全体的にさほど変化はない。ランチは入るが、夜は大半が予約客である。夏休みシーズンに家族利用も増えたが、概ね前年並みでさほど大きな増減は無し。原材料費の高騰が収益をやや圧迫。向こう3カ月の見通し 年末を迎えて、忘年会等の団体利用に期待がかかるが、現時点での予約の動きはまだない。実際に動くものと見られるが、全体としては例年並みの見通しである(蒲都市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-50.0	-25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-75.0	-50.0	-25.0
④採算(収益)	-100.0	-50.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-75.0	-50.0	-25.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-50.0	-20.0	-60.0	-50.0	-25.0
収益	-50.0	-40.0	-60.0	-50.0	-25.0
総合	-83.3	-20.0	-40.0	-50.0	-25.0

[石油等その他小売]

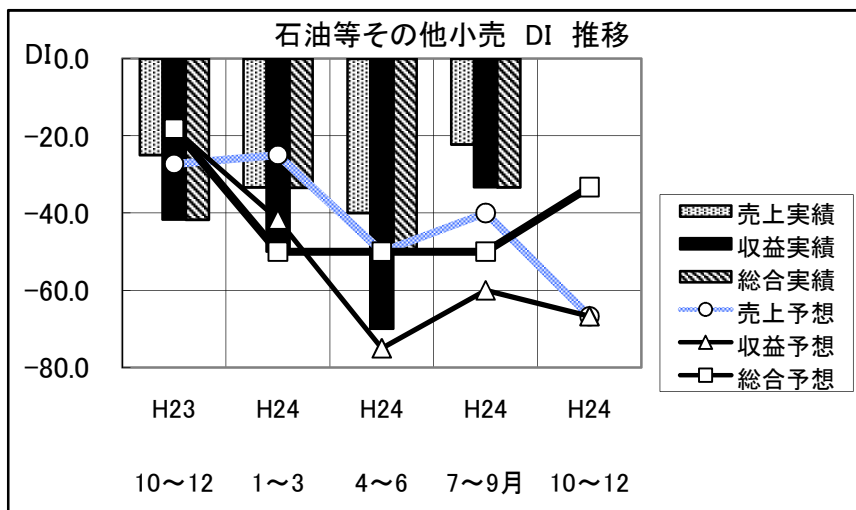
価格動向で見ると、WTI先物取引は、8月に入り、中東の政治情勢への懸念や欧米における景気指標の好転などを背景に上昇し、3日以降90ドル台で推移。熱帯性低気圧からハリケーンとなった「アイザック」がメキシコ湾岸の石油生産に影響を与えれば需給が逼迫するとの懸念が広がり買いが優勢になるなど、世情を鋭敏に反映する。全体的には、昨年水準に比べ、やや落ち着いた動きを見せている。

向こう3カ月の見通し 米エネルギー情報局(EIA)が9月に発表した短期の見通しでは、WTI先物は7-9月期は92.68ドル、10-12月期は93.67ドルで推移するものと予測しているが、前回の予測を3~4ドル上方修正している。また、EIAによる週間調査でもガソリン・ディーゼルともに小売価格がじわじわと値を上げており、引き続き注視している。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-55.6	-22.2	-66.7
②製品・商品在庫	-11.1	-11.1	-11.1
③資金繰り	-22.2	-33.3	-22.2
④採算(収益)	-33.3	-33.3	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	-11.1	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-33.3



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-25.0	-33.3	-40.0	-22.2	-66.7
収益	-41.7	-50.0	-70.0	-33.3	-66.7
総合	-41.7	-33.4	-50.0	-33.3	-33.3

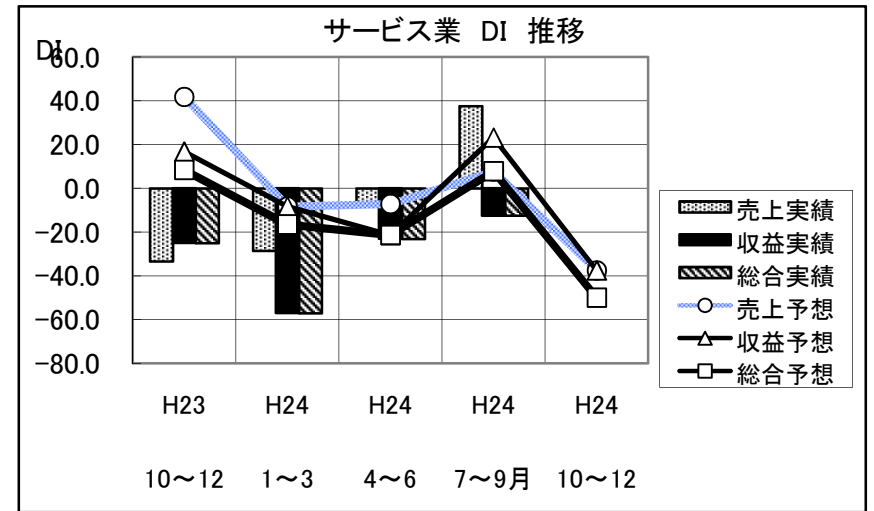
サービス業

売上DI値は37.5、前期実績4～6月期(△7.7)に比して45.2ポイントの上昇、収益DI値は△12.5、前期実績4～6月期(△23.1)に比して10.6ポイントの上昇、総合判断DI値は△12.5、前期実績4～6月期(△23.1)に比して10.6ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも改善傾向であった。
向こう3カ月の見通し 夏季を迎えて、売上・収益・総合判断とも悪化傾向にあり先行きに懸念。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	37.5	-37.5
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-37.5	-25.0	-12.5
④採算(収益)	-25.0	-12.5	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	0.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-12.5	-50.0



<業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	-33.3	-28.6	-7.7	37.5	-37.5
収益	-25.0	-57.1	-23.1	-12.5	-37.5
総合	-25.0	-57.1	-23.1	-12.5	-50.0

【旅館】

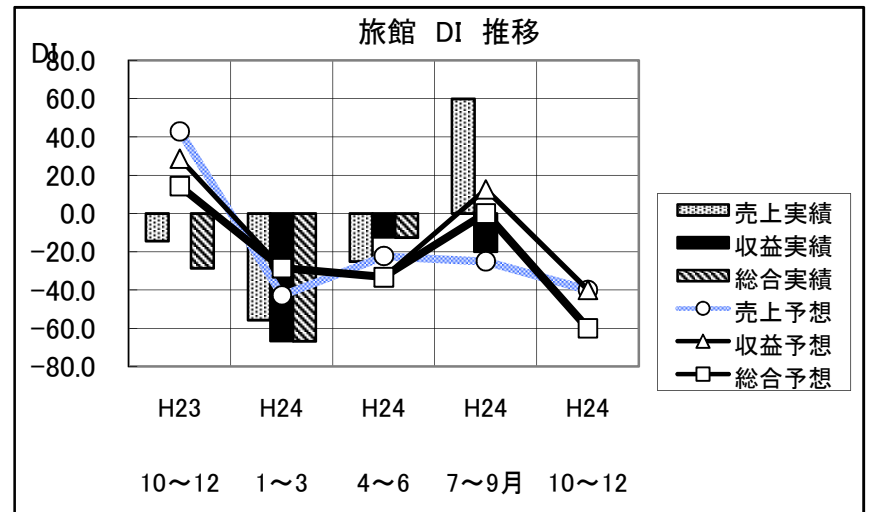
夏休みにあたるピーク時であったが、前年比では微減。関東(スカイツリー・TDL)方面の旅行が増加したり、宿泊から日帰り旅行にシフトするなど当地区の宿泊は逆風。また、円高による海外旅行増の影響もあった。しかしながら、長期休暇に旅行という生活スタイルが国民に定着したのは歓迎すべき事で、蒲郡へ旅する魅力づくりを進めていきたい。宿泊者割合では多くないが、中国との外交問題は、確実に悪影響を及ぼした。今後東南アジアからの旅行者が相対的に増える見込み。ご当地グルメ”ガマゴリうどん”の動きなどには協力していきたい。

向こう3カ月の見通し オンパクは宿泊者より日帰り旅行者が主要層であるが、蒲郡の宣伝にもなるため積極的に協力したい。アカザエビを使ったプリンセス御膳も4年目を迎えたが、さらなる定着を目指して取り組み続けたい。忘年会については形態が変わりつつあり、部署単位等で開催する小グループ化が進み、旅館でなく居酒屋での開催が増えている。100名を超えるような大型団体の予約はあるが、今後小グループ化・分散化は更に進む見込み(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	60.0	-40.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	0.0	-20.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	40.0	20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	0.0	-60.0



<業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	-14.3	-55.6	-25.0	60.0	-40.0
収益	0.0	-66.7	-12.5	-20.0	-40.0
総合	-28.6	-66.7	-12.5	0.0	-60.0

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績4～6月期(△14.3)に比して14.3ポイントの上昇、収益DI値は△28.6、前期実績4～6月期(0.0)に比して28.6ポイントの下降、総合判断DI値は△14.3、前期実績4～6月期(△14.3)に比して横バイと、売上は改善も、収益は悪化・総合は横バイ傾向である。
向こう3カ月の見通し 売上・総合は悪化、収益は横バイと水面下の厳しい状況。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-42.9	0.0	-28.6
②製品・商品在庫	14.3	0.0	14.3
③資金繰り	-14.3	0.0	0.0
④採算(収益)	-28.6	-28.6	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-42.9	-14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-57.1	-14.3	-28.6

[旅客・貨物輸送・水運]

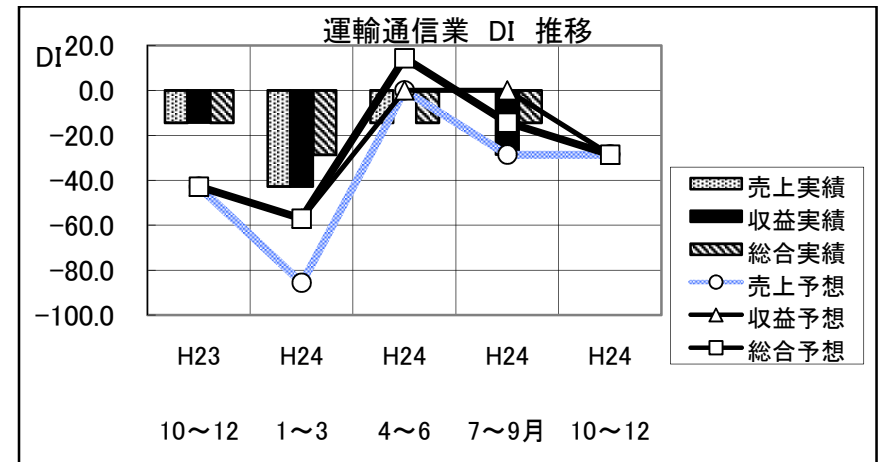
<貨物輸送> エコカー補助金の駆け込み需要も予想を下回り、自動車メーカーの生産も一部車種を除き低調。その影響からか、機械関連メーカーの在庫が膨らみ、倉庫不足が続く。輸送量全体では、前期並み～微増に留まる。輸出は、円高と欧州債務危機に伴う中国経済の減速で前年同期比で微減。輸入は微増傾向。木材等の原材料は対前年微増だが、海外の産地出荷が停滞し、原木の輸入は大きく減少。完成車の輸出台数は、対前年比では大きく増加するも、欧州景気の影響で震災前のピーク時と比較すると低迷が長引く。向こう3カ月の見通し 復興需要に期待も、消費冷え込みや欧州債務危機・円高の影響で、荷動きは先行き不透明。中国との領土問題もあり、製造業の動きは鈍く、貨物輸送量も横バイ。新規住宅着工件数も低調に推移し、木材等の原材料輸入も横バイの見込み。輸出は、欧州の債務危機の影響が続き、中国の景気減速・輸出鈍化もあり鈍い動き。完成車輸出は、欧州向けを中心に前期より増加予想。

<バス業界関係> 概ね前年並みで推移。昨年比で関東方面に良く動いた印象。個人旅行の増加に伴い、インターネットを通じた直接予約により旅行代理店の利用は減少傾向にある。向こう3カ月の見通し 秋の行楽シーズンに入り、団体旅行が増加する時期。以前より間際の予約も増えているが、顧客数の維持確保に努めたい。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

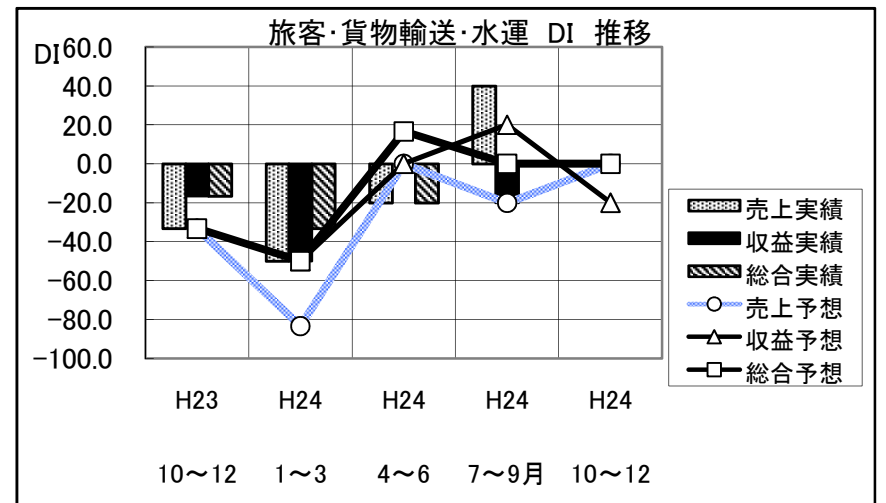
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年7月～9月 に比べて	前期比 平成24年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成24年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	40.0	0.0
②製品・商品在庫	20.0	0.0	20.0
③資金繰り	-20.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-20.0	-20.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-40.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-14.3	-42.8	-14.3	0.0	-28.6
収益	-14.3	-42.9	0.0	-28.6	-28.6
総合	-14.3	-28.6	-14.3	-14.3	-28.6

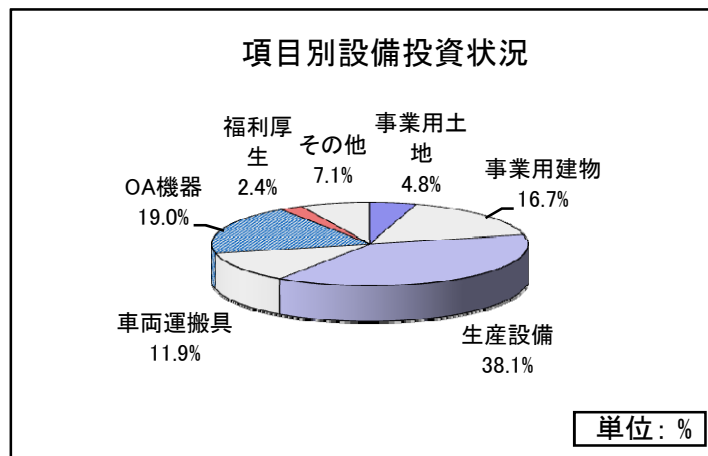
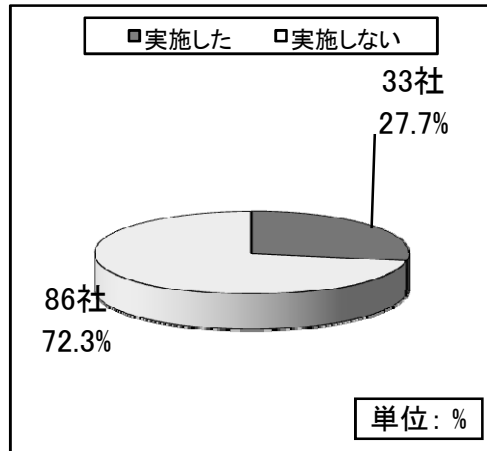


<業況判断DIの推移>

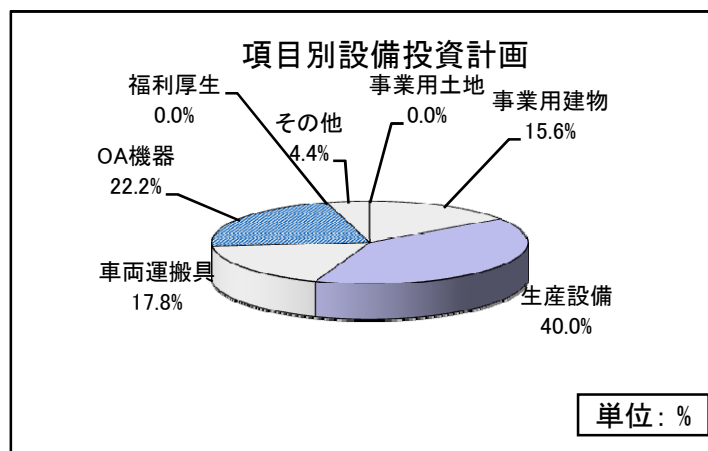
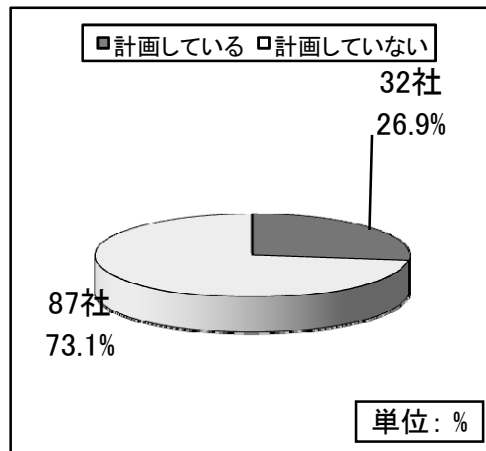
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-33.3	-50.0	-20.0	40.0	0.0
収益	-16.6	-50.0	0.0	-20.0	-20.0
総合	-16.6	-33.3	-20.0	0.0	0.0

7. 設備投資動向

＜今期(H24. 7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H24. 10～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	0
事業用建物	7	7
生産設備	16	18
車両運搬具	5	8
OA機器	8	10
福利厚生	1	0
その他	3	2
計	42	45

(単位:件)

◎今期(H24.7～9月)、来期(H24.10～12月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H24.7～9月)	33	20	3	4	3	1	2
2. 来期 (H24.10～12月)	32	21	0	3	1	5	2

(単位:事業所)

付帯調査(地域データ)

No.56

番号	調査項目	単位	H24. 10報告	基準日	H24. 7報告	基準日	H24. 4報告	基準日	H24. 1報告	基準日	出典
1	人口	人	80,386	H24.10.1	80,431	H24.7.1	80,498	H24.4.1	80,628	H24.1.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,640	H24.10.1	29,566	H24.7.1	29,462	H24.4.1	29,367	H24.1.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	50,431	H24.10.1	50,317	H24.7.1	50,613	H24.4.1	50,773	H24.1.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,119	H24.10.1	2,188	H24.7.1	2,139	H24.4.1	2,067	H24.1.1	〃
5	建築確認届出件数	件	111	H24.6～8月	129	H24.3～5月	87	H23.12～2月	107	H23.9～11月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	4.3	H24.7月	4.4	H24.5月	4.5	H24.2月	4.5	H23.11月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	4.2	H24.4～6月	3.7	H24.1～3月	3.3	H23.10～12月	3.3	H23.7～9月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.83	H24.8月	0.81	H24.5月	0.75	H24.2月	0.69	H23.11月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.72	H24.8月	0.62	H24.5月	0.70	H24.2月	0.76	H23.11月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

(※) 統計数値に、岩手・宮城・福島を除く集計です。

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	500.3		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	509.6		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	498.4		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	497.6		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	502.9		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	497.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	491.3		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	490.2		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.3		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	501.7		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	507.3		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	515.5		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,093,519	504.2		▲ 1.9	321.2
2009年1月	277	4.1	0.67		70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 36.9	62,303	115.2	▲ 3.8	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52		66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46		66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 37.7	62,805	116.9	1.6	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43		68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42		65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 27.0	59,749	114.7	▲ 0.2	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43		61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43		67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 4.8	68,198	124.2	1.9	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43		69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	20.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	27.9	56,527	117.9	1.6	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	12.7	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	32.0	66,568			▲ 0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	16.2	59,911	119.4	1.1	▲ 0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	26.0	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	20.8	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	38.8	71,972	118.6	0.5	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	12.7	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	20.2	71,390			▲ 0.4	19.3
11月	318	5.1	0.57	17.9	72,838	125.7	0.0	▲ 0.4	20.3
12月	298	4.9	0.57	7.2	74,517			▲ 3.3	17.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.6	66,709			▲ 1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	31.4	62,252	115.3	▲ 1.7	▲ 0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	5.5	63,419			▲ 8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61	2.3	66,757			▲ 3.0	10.8
5月	293	4.5	0.61	16.4	63,726	114.6	▲ 0.5	▲ 1.9	14.2
6月	293	4.6	0.63	12.2	72,687			▲ 4.2	22.5
7月	292	4.7	0.64	▲ 2.3	83,398			▲ 2.1	24.1
8月	276	4.3	0.66	1.0	81,986	115.2	1.4	▲ 4.1	21.6
9月	275	4.1	0.67	5.9	64,206			▲ 1.9	31.3
10月	288	4.5	0.67	▲ 5.8	67,273			▲ 0.4	24.7
11月	280	4.5	0.69	3.9	72,635	122.7	▲ 0.2	▲ 3.2	25.2
12月	275	4.6	0.71	2.6	69,069			0.5	22.1
2012年1月	291	4.6	0.73	14.0	65,984			2.3	26.3
(平成24年)2月	289	4.5	0.75	▲ 9.3	66,928	117.0	1.2	2.3	33.3
3月	307	4.5	0.76	8.8	66,597			3.4	49.7
4月	315	4.6	0.79	8.8	73,647			2.6	20.8
5月	297	4.4	0.81	▲ 7.6	69,638	117.1	0.2	4.0	23.6
6月	288	4.3	0.82	▲ 11.4	72,566			1.6	31.7
7月	288	4.3	0.83	2.1	75,421			1.7	32.8
8月			0.83		77,500				23.2
9月									28.8

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。